

ESDをもっと身近に ①

東日本大震災の折、我が国に寄せられた賛辞

東日本大震災の直後、諸外国の報道機関は、我が国に対して次のような賛辞を寄せています。

- 人々は数本の水を手に入れるために、じっと我慢して整然と何時間も並んでいる。
- 日本語には英語にはないガマンという言葉がある。
- 驚いたことに、客は誰一人として食い逃げをしないばかりか、全員が店に戻り、各自が並んで支払いを済ませた。
- 東京では混乱する鉄道各駅でも人々が押し合うこともなく、みんなが非常に秩序正しかった。
- 他の国ならこうした状況下で簡単に起こり得る混乱や暴力、略奪などの報道が一件もない。
- どの国も天災があれば、国際的な同情と援助を受けるが、日本のように敬服され、威信を高める国は珍しい。
- 破損した民家から救い出される際、救助隊員に「不便」をかけたことを謝罪し、他の被災者を気遣った。



被災地の人々などが、特段意識しないで行動したことが、世界の国々から注目されたのです。こうした行為の根底には、我が国ならではの精神文化があります。

シンプルで簡単

文筆家、クリエイティブディレクター 松浦弥太郎

たくさんの機能がついていると、すごい。難しい言葉を使って話した方が、信頼性がある。それは果たして、本当でしょうか？ 複雑さがクオリティを高めるとするのは錯覚です。時間をかければ質が上がるというのは誤解です。大切なのは、余計なことをしないこと。「何をすべきか」ではなく「何をしないか」を考えること。シンプルで簡単な方が人と共有できるし、トラブルが起きたときの軌道修正もスムーズです。

出典：「しごとのきほん くらしのきほん 100」(マガジンハウス)

※ 常に相手意識と目的意識をもって、シンプルでありたいものです。